

希望の国・デンマークがあった

デンマーク チェルノブイリより前に原発とサヨナラ。
原発なしで電力120% つまり輸出。

どうやってこんなことができるのだろう？
どうやら国民が自分で選びとっているらしい。
デンマークには民衆が主人公の本物の民主主義がある。

その秘密を聞いてみましょう。
日本の「民主主義」とどう違うのか。

こんな近くにデンマークの研究者がいらっしゃいました。
幸運でした。ぜひお聞きください。

日本の未来にも希望をつないで行けるために！！

講師：清水 満さん

● 清水満：教育市民運動ネットワーク「日本グルントヴィ協会」幹事。
北九州市立大学他非常勤講師、デンマーク民衆教育思想、ドイツ社会哲学を専門にする。
著書に、『生のための学校』（新評論）『コルの「子どもの学校」論』（新評論）、
『フィヒテの社会哲学』（九州大学出版会）など。

3月29日（土）

PM1:30~4:30

しものせき市民活動センター

TEL 083-231-1826 資料代：500円



連絡先 090-4898-0128（欽野）

デンマークの教育と民衆主義に学ぶ

今から 103 年前の 1911 年（明治 44 年）内村鑑三は『デンマルクの国』（岩波文庫）という論文を書いた。デンマークはその 47 年前にプロシアとオーストリアとの戦争に敗れて豊かな南の 2 州を失い、痩せ土の北部だけを残したにもかかわらず、いかにして復興を成し遂げたか、その秘密はその精神性、宗教的信仰によるものであることを述べたものだった。その頃の日本は日清日露戦争に勝利し、台湾、韓国を併合する等して領土を拡大してまさに新興の帝国主義国として日の出の勢いだった。

今、デンマークは世界で最も安心して暮らせる幸福な国といわれている。しかし、70 年代の石油ショックを契機に脱原発、自然エネルギーの道を歩み出し、今やエネルギー自給率は 120%に達している。教育、福祉も高いレベルであり、その民主主義は成熟したものであろう。かの国は 1864 年以来、150 年間戦争をして来なかった。ナチスがせめて来た時には、先ずユダヤ人を国外に逃がして抵抗した。戦争が終わるとそのユダヤ人たちは自分の住処にもどって暮らすことができた。

日本はあの敗戦から 69 年で平和憲法を持ちながら、もう戦争をする国をつくろうとし、「唯一の被爆国」は原発を爆発させ放射能汚染の深刻な被害を拡大させ、そのような原発輸出を進めつつある。国の財政は 1000 兆円を超える赤字で子孫にそのツケは全部任せるという無責任さ。日本とデンマークのこの落差とはいったい何が原因なのか。

デンマークの教育について『生のための学校』『共感する心、表現する体』等の本を著し、高い評価を受け、さらにデンマークの教育の歴史、その思想等について研究し実践活動を重ねてこられた清水満さん。デンマークの自然エネルギー、政治、民主主義、教育、福祉等について、ぜひともご質問も用意してご参加ください。



デンマーク由来の脱原発デザイン

清水 満さん

1955 年、長崎県対馬生まれ、鹿児島大学（法文学部）に学ぶ。大学時代に川内原発反対運動に参加。その後九州大学大学院からドイツ留学し、デンマークに関心を強め、デンマークの民衆教育を本で紹介し、今やこの面では日本の第一人者と見なされている。

デンマーク民衆教育は、フォルケホイスコーレといい、日本語では国民高等学校、国民大学と訳されている。ホイスコーレの理念はデンマークの思想家、教育者、牧師、哲学者であるグルントヴィ（1783-1872）によって立てられ、デンマークの民主主義社会をつくる基盤となった。

その後、清水さんは日本でグルントヴィの名前を冠してグルントヴィ協会をつくり、デンマークの民衆教育を紹介し、デンマークへのスターディツアーを企画し日本とデンマークの市民交流も進めて来ている。

全国各地にグルントヴィ協会の協会員が居て、各地域での民衆教育活動とつながりをつくって来ている。その教え方は机の上だけでなく、むしろ体を使つての表現を重視するなどのデンマーク教育を多く取り入れている。協会会員への人権侵害にも支援活動を行っている。